

2年次	生理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
60 2	PhysiologyⅡ 鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
<b>【授業の学習内容】</b> 生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。生理学Ⅱでは人体動物性機能について学習する。生物学で学習した活動電位に続いて神経の興奮の伝導・伝達について学習する。それを基礎に末梢神経系、中枢神経系の情報伝達について学習する。更に、筋肉の機能について学習する事によって神経と筋肉の間で生じる情報伝達についても学習する。また、生体外情報を入力する感覚器についても学習する。基礎的な免疫応答についても学習する。							
<b>【到達目標】</b> ①神経の構造と機能(興奮と伝達)について理解する。 ②高次中枢機能について理解する。 ③筋の構造と機能(収縮メカニズム)について理解する。 ④感覚器系、特殊感覚について理解する。 ⑤上述の機能を関連付けて説明できる。⑥基礎的な免疫応答を理解する。							

授業計画・内容	
1回目	第14章 生体の防御機構 (自然免疫)について説明ができる
2回目	第14章 生体の防御機構 (獲得免疫)について説明ができる
3回目	第14章 生体の防御機構 (免疫反応)について説明ができる
4回目	第10章 神経 (ニューロンの構造と働き)について説明ができる
5回目	第10章 神経 (神経線維の興奮伝導)について説明ができる
6回目	第10章 神経 (シナプス伝達)について説明ができる
7回目	第10章 神経 (反射・脊髄)について説明ができる
8回目	第10章 神経 (脳幹の機能)について説明ができる
9回目	第10章 神経 (小脳の機能)について説明ができる
10回目	第10章 神経 (視床・視床下部の機能)について説明ができる
11回目	第10章 神経 (大脳の機能)について説明ができる
12回目	第10章 神経 (末梢神経の機能)について説明ができる
13回目	第10章 神経 (自律神経系の機能)について説明ができる
14回目	中間試験
15回目	中間試験解答解説
準備学習 時間外学 習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 2年次、3年次の臨床系科目の基礎となるため必ず、講義の復習が必要になります。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> 数研出版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 生理学	

科目名 (英)	生理学Ⅱ Physiology II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
<p>生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。生理学Ⅱでは人体動物性機能について学習する。生物学で学習した活動電位に続いて神経の興奮の伝導・伝達について学習する。それを基礎に末梢神経系、中枢神経系の情報伝達について学習する。更に、筋肉の機能について学習する事によって神経と筋肉の間で生じる情報伝達についても学習する。また、生体外情報を入力する感覚器についても学習する。基礎的な免疫応答についても学習する。</p>							
【到達目標】							
<p>①神経の構造と機能(興奮と伝達)について理解する。②高次中枢機能について理解する。 ③筋の構造と機能(収縮メカニズム)について理解する。④感覚器系、特殊感覚について理解する。⑤上述の機能を関連付けて説明できる。⑥基礎的な免疫応答を理解する。</p>							

授業計画・内容	
16回	第11章 筋 (骨格筋の構造と働き)について説明できる
17回	第11章 筋 (筋収縮の仕組み)について説明できる
18回	第11章 筋 (エネルギー供給の仕組み)について説明できる
19回	第11章 筋 (心筋と平滑筋)について説明できる
20回	第12章 運動 (骨格筋の神経支配)について説明できる
21回	第12章 運動 (骨格筋の神経支配)について説明できる
22回	第12章 運動 (脊髄レベルでの運動調節)について説明できる
23回	第12章 運動 (脳幹レベルでの運動調節)について説明できる
24回	第12章 運動 (脳幹レベルでの運動調節)について説明できる
25回	第12章 運動 (錐体路系と錐体外路系)について説明できる
26回	第13章 感覚 (感覚の分類と一般的性質)について説明できる
27回	第13章 感覚 (体性感覚・内臓感覚)について説明できる
28回	第13章 感覚 (痛覚)について説明できる
29回	第13章 感覚 (味覚・嗅覚・聴覚)について説明できる
30回	第13章 感覚 (平衡感覚・視覚)について説明できる
準備学習 時間外学 習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 2年次、3年次の臨床系科目の基礎となるため必ず、講義の復習が必要になります。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	臨床系科目の基礎になる科目であるため、単純に理解ではなく説明できる程度にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
数研出版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 生理学	